

野田北部幼稚園 2022 年度 公開保育 評価

(専門評価者)

公開保育実施日：令和 5 年 3 月 17 日（金）

評価者：田中 卓也先生（育英大学）

ここ数年続いたコロナ禍により、生活様式や行事の見直しの検討が余儀なくされた。コロナ禍に合わせた見直しや都度の検討は職員理解の上でも負荷は大きかったが、保育の在り方を含めた園の変革期でもあり、改めて園の理念を見直す大きなきっかけにもなっていったように感じる。

●課題と対応の方向性●

- ① **【活動に追われ、遊びの時間を確保してこれなかった。】**という点を園の課題とし、**（こどもの意思を尊重した）遊びの時間を確保するために、「一斉活動から子ども主体の個を大切に保育」への見直しと、行事や取り組み等の見直し。**

→「遊びに重点を置き、大人主体から子ども主体の保育に変えていく」ということは、保育内容だけでなく、今まで当たり前におこなってきた「子どもたちへの接し方」「子どもの見方（まなざし）」等、保育者自身の考え方を変えていく必要があり、職員間での共通理解は引き続き必要である。

→まだまだ改善点は多いが、「理念に沿ってここは大事にする」「ここは省ける」と、行事や取り組みの精査が少しずつ進んできている。

- ② **子どもたちの興味関心に応じた活動を尊重し、取り組みや活動を「楽しい！」と思えるところからスタートさせる配慮や工夫をおこなう**

→子どもたちに「●●をやらせよう」とする保育から、「どうしたら興味が膨らむかな？」「子どもたちが楽しんでくれるかな？」という、保育者の工夫が見られるようになってきている。

- ③ **子どもの姿に合わせた環境作り**

→子どもたちが自身で気づき、どの子も片付けがおこなえるよう、数が決まっているような道具には番号を全てに付けて収納場所を明確化した。（シャベル・色水コーナー・絵本コーナーの整理）

→入園当初、園庭が広すぎて不安になってしまう 2 歳児の姿から、園庭の一部に小さな園庭を造った。また、延長保育児が安心かつ安全に遊べるように、にここルーム前に小さな園庭を造った。小さな園庭を造ることで、2 歳児が大きな不安を感じることなく戸外で遊べるようになったり、保育者の目が届きやすく安全面で良い面も見られる。

→楽しみながら運動能力が向上していくような遊びを考えられるようになった。(ボール投げ BOX・ジャンプ遊び・縄跳び記録表)

→不要な物を遊びに使っていく工夫。遊びの幅と興味の幅の膨らみを感じられる。(使わなくなったデジカメを子どもたちに貸し出し。)

④ 個人ドキュメンテーションの作成

→「個を丁寧に見ていこう」「保護者の方に幼稚園での姿を伝えていこう」ということで、週1回のクラスドキュメンテーションと3ヶ月に1回、個人ドキュメンテーションを作成し保護者へ配信。

→配信ペースや保護者に伝わりにくいシステムゆえの配信方法の改善は必要ではあるが、保育者自身が「以前よりも、子どもの姿を深く捉えようとするきっかけになった」「子どもたちの姿をより楽しめるようになった」「声をかけずに、その子の姿を見守ろうと思えるようになった」「その子の行動の背景を考えるようになった」という意見が聞かれるようになり、保育者の資質向上に繋がっている。

引き続きの課題や保育者の葛藤は多いが、子どもたちのために出来ることを考え改善していき、子どもたちの変化を感じることで、保育者自身の保育観も少しずつ変容してきているところである。

【田中先生の意見を受けて、園での改善方法】

●園庭の木製椅子補強について

・補強箇所を確認し、早急に補強をおこなった。

●子どもたちが絵本を楽しむ工夫について

・普段の保育の中で、絵本を読む機会を必ず位置付けていく。(各担任)

・絵本コーナーを活用し、幼稚園には絵本がたくさんあることを子どもたちに伝えていく。(各担任)

・「絵本棚の前に余計なものが置かれていないか?」「子どもたちが絵本を取りやすい状態になっているか?」環境を見直す。(各担任)

・定期的に絵本の入れ替えをおこない、絵本に対して興味が膨らむようにしていく。(各担任)

・活動に絵本の世界を取り入れていく。(ハサミや絵具遊び等) & 職員への研修(堀井)

・保護者への絵本紹介(堀井)

●ピオトープをどのように活用できるか?

・現在の使い方としては「ピオトープを見に行く。」「魚に餌をあげる。」等を通して、2~3歳児は気持ちを安定させていたり、4~5歳児は魚を捕ろうとしたり、ヤゴを発見するような姿も見られる。今後は、ヤゴや水辺の生き物に興味広がるよう、子どもたちの目につく場所に図鑑や掲示物を用意したり、ピオトープで見られる生き物等を紹介をしていき、より水辺の生き物に興味膨らんでいくような環境を準備していく。

●職員間の共通理解について

- ・年度初めや学期末に研修をおこない、園の方針や考え方を振り返ったり、職員同士が共通理解できる場を設定していく。（いろいろな部門の職員が会議に参加できるよう、幅広く早めに声掛けをしていく。）
- ・2～5歳への育ち表を作成する。

●職員間の連携について

- ・保育中の職員連携は、無線アプリ Zello を利用する。保育者の充電、携帯忘れも多いので徹底していく。また非正規職員との連携手段は要検討。
- ・職員間の確認事項はチャットワークを利用。

●その他

- ・保育者の資質向上のため、研修や研究活動を充実させていく。（研修参加後のフィードバックやアウトプットの場を設ける。）
- ・園の方針や考え方、これから変わっていく点を保護者に分かりやすく発信し、理解や協力を得ていく。アプリの検討や動画配信、定期的な対話の会や説明会を設けていく。（全体対話の会/年3回・小グループ対話の会/子どもの姿動画配信）
- ・地域への発信はインスタグラムとホームページを利用。